

赤十字国際ニュース

2014年 61号 2014年9月26日
(通巻 第 1073号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3435-8509
E-mail:okusai@jrc.or.jp <http://www.jrc.or.jp/>

■What's New of the Movement

世界では今も、紛争や自然災害、感染症などで多くの人々が苦しんでいます。今回は、そんな世界の人道危機の一つひとつに向き合う国際赤十字の最近の活動について、国際赤十字・赤新月社連盟（以下、連盟）や赤十字国際委員会（以下、ICRC）のニュース記事からいくつか取り出してご紹介します。

■バングラデシュ：洪水が残した破壊のつめ痕



洪水の被災者たちは、安全な飲料水や衛生用品を必要としています。©IFRC

クリグラム県の北東部でドロラ川がはんらんしたことを受け、バングラデシュ赤新月社（イスラム圏の赤十字社。以下、バングラデシュ赤）のボランティアは、バナナの木を組んで作ったボートで捜索・救援活動を開始しました。「近年、これほどの洪水は目にしたことがありません」と、バングラデシュ赤クリグラム支部青少年課のシャウォンさんは話します。主要河川の流域に降った激しい雨などによる洪水で、8月中旬からバングラデシュで標高の低い 19 の地域で同様の事態が続いており、約 300 万人が被害を受けています。これまでに約 34 万人が自宅からの避難を余儀なくされ、3 万 4000 戸の住宅が破壊されました。バングラデシュ政府の報告によると、これまでに 52 人が死亡、約 400 人が負傷しています。（9月 14 日現在）詳しくは連盟ホームページ（英文）をご覧ください。

<http://www.ifrc.org/en/news-and-media/news-stories/asia-pacific/bangladesh/floods-leave-a-trail-of-destruction-in-rural-bangladesh--67029/>

■シリア：クネイトラ県での戦闘で避難を強いられた数千人への緊急支援



ダマスカス郊外から避難する子どもを抱えるシリア赤新月社のボランティア
© Ibrahim Malla/IFRC

シリア南西部のクネイトラ県では、中心地であるアル・バースなどで戦闘が続き、数千もの家族がダマスカス郊外への避難を余儀なくされています。ICRC は、避難してきた人々に支援の手を差し伸べるべく、シリア赤新月社と緊密に連携を取りながら、5 万人以上に緊急支援を提供してきました。クネイトラ県では、政府軍と反乱軍の緊張が高まってきており、特にクネイトラ市では安全な水や食料を手に入れることが難しく、医療も受けにくくなっています。

詳しくは ICRC 駐日事務所のホームページをご覧ください。
<http://jp.icrc.org/2014/09/15/2430/>

■中国：ユースオリンピックで人道問題のワークショップを開催



©Kevin Xia/IFRC

連盟は、中国紅十字会（中国の赤十字社）の協力を得て、8月14日～28日まで、南京ユースオリンピックの文化・教育プログラムに参加しました。選手村のブースで開催したワークショップは、「人道的価値」や交通安全、救急法、「行動様式の変化をもたらす若者」など多彩な内容。2週間の会期中、何千人の青少年アスリートやスポーツ関係者、ボランティア等に人道上の課題について関心を呼び起こしました。

詳しくは連盟ホームページ（英文）をご覧ください。

<http://www.ifrc.org/en/news-and-media/news-stories/asia-pacific/china/nanjing-turning-young-athletes-into-humanitarian-ambassadors-67023/>

■連盟新事務総長就任



左から、シィ新事務総長、ベケレ前事務総長、近衛会長 ©日本赤十字社

エルハッジ・アマドゥ・シィ氏（Elhadj Amadou Sy, 通称 As）が8月1日、連盟事務総長に就任し、近衛会長との新体制が本格的に始動しました。

「最初に赤十字の活動を目の当たりにしたのは1989年、セネガル・モーリタニアの紛争でした。赤十字はどんな時でも、災害時の現場でいち早く活動する、その対応の早さを私はいつも見てきました」就任インタビューでの言葉です。

詳しくは日本赤十字社ホームページをご覧ください。

http://www.jrc.or.jp/about/president/140822_002096.html

■南スーダン：コレラの流行に立ち向かう



地域で活動するボランティアにより、被害が発生しそうな場所に予防のための情報が直接届けられます。©IFRC

5月半ばにコレラの流行が宣言された南スーダンでは、8月中旬までに5859人が感染し、127人が死亡しています。南スーダン赤十字社は、何百人の訓練されたボランティアを動員し、個人宅の訪問やラジオ放送、移動映画の上映などを通じてコレラの予防策についての情報を発信しています。コレラは感染のスピードが速い感染症ですが、早期に発見されれば治療が可能です。

詳しくは連盟ホームページ（英文）をご覧ください。

<http://www.ifrc.org/en/news-and-media/news-stories/africa/south-sudan/tackling-cholera-outbreaks-in-south-sudan-66993/>



日本最大級の国際協力イベント グローバルフェスタ JAPAN2014に出展します！

このグローバルフェスタは、若い世代からシニア層まで幅広い方々へ国際協力をより身近なものに感じてもらうと共に、ODAを含む国際協力の現状や必要性、政府とNGOの協力などについての理解と認識を深めてもらいながら、国際協力の参加を促進することを目的として開催されており、今年は「国際協力60周年」の記念の年となります。会期中は、ICRC駐日事務所、国際協力に関心のある学生ボランティアと連携し、紛争や災害などの被災者への緊急・復興支援活動をわかりやすく紹介します。是非、ご来場ください！

開催日時：2014年10月4日（土）10:00～17:00

2014年10月5日（日）10:00～17:00

開催場所：日比谷公園（噴水広場・にれの木広場・野外小音楽堂・第二花壇等）
東京都千代田区日比谷公園1-6（入場無料）